

NHKへの抗議声明

- 右翼の圧力による「女性国際戦犯法廷」番組改ざんに対して -

2001年2月23-24日 ソウルで開かれた「女性国際戦犯法廷」国際実行委員会は、日本のNHKが同年1月29日から2月1日まで4回にわたって放映したNTV 2001シリーズ「戦争をどう裁くか」や2回「問われる戦時性暴力」は「法廷」にフリー誤解と偏見をもたらし番組であり、「法廷」主催者としてNHKに強く抗議する。

第一に、この番組は、日本軍性奴隷を裁く「女性国際戦犯法廷」というフルネームさえ一度も使わず、「法廷」にフリーの具体的事実も伝えず、他方で「法廷」に対する批判的発言や、「法廷」と関連のないことに時間を費やし、日本軍性奴隷制（慰安婦制度）が、この番組のテーマである人道に対する罪としての戦時性暴力であることを意図的に隠蔽している。

第二に、この番組は「法廷」を紹介しながら肝心の「昭和天皇責任の有罪、国家に責任」の判決に一切ふれず、この番組が意図したのはアジアと日本の和解を妨げる結果になっている。被害事実も認めず責任の所在も隠したままの正義のない和解を被害国・被害者が受け入れることはあり得ないからである。

第三に、この番組は、被害女性の証言の信ぴょう性を疑い、しかも、「慰安婦」は被害国の売春業者に売られて商行為を行っていたなどという虚言を一方的に流して被害女性の名誉と尊厳を再度ふみにじって名誉毀損を犯している。



第四に、この「法廷」が民間法廷であるにも関わらず、国家~~の~~裁判に求められる原則に反していると、「法廷」に敵意を持つ発言者だけでなく、中立であるはずの番組司会者までが批判していることは、この「法廷」を主催し参加した被害各国のすべての人々として「法廷」を支援した国際市民社会に対する侮辱である。

第五に、日本社会に強まる右翼勢力の妨害の中で、NHKがこの番組を大幅に改ざんし、自主規制を行ったことは、報道の自由(プレス・フリーダム)を守る公共放送の責任を放棄し、国民の知る権利を奪うものである。それは言論弾圧の下に強化されたかつての軍国主義の復活につながり、再び戦争犯罪と人道への罪を犯すことを憂慮する。

謝罪を促す

以上の理由から、NHKが国際実行委員会に対して、この番組制作の過程を明らかにし、誠意を持って謝罪し、「法廷」を公正に紹介する番組を制作し放映するように強く要求し、この要求に対する速やかな回答を求めます。

2001年2月24日

日本軍性奴隷制を裁く「女性国際戦犯法廷」国際実行委員会

共同代表 尹貞玉 (韓国挺身隊対応)

インディサホール (フリスレ ASCENT)

松井やより (日本 VAWW-NET Japan)

委員 蘇智良 (中日国際婦人問題センター)

金允玉 (韓国挺身隊)

申憲秀 (同)



鄭金銀皇 (同 ~~原田 正太郎~~)

王有時顯 (同)

梁美庫 (同)

中原道子 (VOW-NET Japan)

栗林路得子 (同)

宋蓮玉 (同)